

マクロ経済学A
復習
来週の小テスト準備

2019年7月16日
第13回まで

不況の状況は？

マクロモデルで、不況とはどのような状況か

- 社会全体の生産量（現実のGDP）が、完全雇用をもたらす生産量（潜在GDP）よりも、明確に小さい（不足している）状況

潜在GDPと同じだけ生産量があれば、雇用はどのようなになっているか

- 社会の雇用は、完全雇用あるいはそれに近い状況となっている。

総生産が減少するのはなぜか

ケインズ型のマクロモデルにおいて、総生産が減少してしまうのはなぜか。

- 総需要が、なんらかの原因で、総生産にくらべて小さくなるためである。

総需要が、総生産に比べて小さい場合、生産側に何が起きるか

- 社会全体に売れ残りが発生する、あるいは、そのおそれが出るため、生産者は短期的に生産を減らす。

総需要が減少する原因は？

総需要が減少するのは、需要項目がどうなるからか？

1. 家計の将来への不安感の高まりによる、消費の減少
2. 企業の景況感の悪化による投資の減少。企業の設備投資循環の一巡
3. 政府の緊縮政策（政府支出の減少、増税）
4. 外国の景気悪化や為替レートの高騰による輸出の減少

失業の発生の原因

- 不況において、失業が発生するのはなぜか？
- 生産量が、完全雇用の水準（潜在GDP）よりも少なくなるため、既にその生産水準を前提として雇用している労働力では過剰となる。企業は、過剰な雇用を減らそうとするから。

不況の雇用への影響

不況となると、有効求人倍率と失業率は、それぞれどうなるか。

- 有効求人倍率は、不況と同時に低下する。失業率は、不況から時間をおいて上昇する。

なぜ、失業率は、不況から時間をおいて上昇するのか

- 労働力には訓練が必要であり、短期的に雇用を削減してしまうと、再雇用の際に再訓練の必要が出る。また、正社員は、法的保護があり、迅速に解雇できない。